

JR大阪駅周辺施設の活性化プロジェクト

関西大学商学部は、大阪ステーションシティの活性化プロジェクトに参加しました。



上：荒木ゼミ（ガブリッチ（パル）チーム）の試食・グループディスカッションの様子
下：開発したガブリッチの新商品



上：荒木ゼミ（campチーム）の試食・グループディスカッション後の記念写真
下：開発したcampの新商品

活動の概要

目的	①次世代のオピニオンリーダーである学生とテナント及びテナントシェフの経験をミックスし、新たな視点で商品を開発する ②商学部における日頃の学習・研究の成果を活かすことのできるインターンシップ（商品開発及び販売促進）を行う
連携メンバーおよび役割	株式会社ジェイアール西日本デیلیーサービスネット 駅編集事業本部エキマルシェ大阪運営事務所 藤田允氏…プロジェクトの企画・推進・編集 関西大学商学部教授 荒木孝治…学生の活動の調整・サポート 関西大学商学部准教授 西岡健一…学生の活動の調整・サポート 参加学生…連携店舗との新商品開発及び販売促進を行う
活動地域	大阪ステーションシティ（大阪府大阪市北区）
活動期間	2014年6月～2015年10月
費用	参加者による相互の負担

連携の経緯

2014年6月、株式会社ジェイアール西日本デیلیーサービスネットより関西大学商学部に対して協同プロジェクト推進の話があった。従来より様々な企業と協同プロジェクトを推進してきた荒木ゼミ及び西岡ゼミが参加を希望し、それが実現した。平成27年度には直接2ゼミがオファーを受け、参加することとなった。

解決すべき課題

- 梅田近隣で働く女性にとって「うれしい」商品とは何かをインタビュー等に基づいてフィールドワーク
- 与えられたテーマに基づき、学生が持つ新しい発想・視点で商品を開発し、さらに販売促進活動を行う



2015年秋 大阪ステーションシティ フーズフェスタ「知恵と元気！うまいもんWeeks」のポスター

現場の声

- 参加ショップ及び藤田允氏
 - 学生の皆さんがフィールドワークで得たお客様の声がとても参考に、今回の企画だけでなく店舗運営（商品開発、スタッフ教育、陳列、販促等）自体に大きな参考となった。
 - 学生の皆さんのアイデアが、通常の社内の発想では考え付かないものだったので、商品開発の切り口として新たな視点を学ぶことができた。
 - 食材の使い方や、見せ方等、いつもよりもさらに考えるきっかけとなった。
- 学生
 - 学生×社会人で、互いの意見を尊重しながら商品コンセプトの立案からプロモーションまで関わることができた。
 - 自分たちの想いがカタチになるという人生であまり味わえない貴重な体験であった。

大学の役割

2014年、JR大阪三越伊勢丹、大丸梅田店、エキマルシェ大阪が共同企画する『大阪ステーションシティフーズフェスタ』の「関西の大学生とコラボ！知恵と元気！うまいもんWEEKS」のエキマルシェ大阪とのコラボに関西大学商学部荒木ゼミ及び西岡ゼミの学生が参加した。このフェスティバルの開催目的は、【活動の概要】の「目的」に記したように、①次世代オピニオンリーダーとテナントシェフの経験をミックスし、新たな視点で商品を開発（企業側）、②日頃の学業の成果を商品開発と販売促進に活かし、ビジネスを体感すること（学生）にあった。JR大阪三越伊勢丹は同志社大学、大丸梅田店は関西学院大学とのコラボを行った。荒木ゼミ生はスイーツを、西岡ゼミ生はお弁当を開発した。

2015年は、上記と同じ目的、タイトル（フーズフェスタ）のもと、①エキマルシェ大阪×関西大学商学部、②大丸梅田店×関西学院大学、③イセタン フードホール×同志社大学、④ホテルグランヴィア大阪×立命館大学に参加した。荒木ゼミは、『野菜を食べるカレーcamp』（カレー）、『ガストロ酒場 ガブリッチ』（サラダ）と、西岡ゼミは、『牛たん炭焼 利久』（牛たん丼）、『北極星』（オムライス）、『ベジステ』（サラダ）とコラボし、括弧内に記した新商品を開発した。その際学生は、エキマルシェ大阪周辺で入念なフィールドワークを行い、それをベースにテーマに関連した商品案を考案した。

成果

- 2014年10月15日（水）～同年10月28日（火）、及び2015年10月7日（水）～同年10月20日（火）、協同で開発した商品が発売
- 商品のネーミングや特徴、「こだわり」等を考案し、『エキマル誌』（2014年10月号、2015年10月号）の作成に参加
- 2014年10月、朝日放送の依頼により、荒木ゼミの代表者2名が『おはよう朝日～土曜日です～』の取材を受け、10月18日（土）に放映
- 2015年、産経ニュース（Web）及び朝日新聞デジタル（Web）に掲載

今後の展望

- JR大阪駅周辺のさらなる活性化に向けて、協同プロジェクトを推進していきたい。
- 企業と商学部とが協同プロジェクトを継続的に推進するための仕組み作りを考えたい。

研究者および連携メンバーの紹介



商学部 教授
荒木 孝治
（あらか たかはる）

専門は統計学・品質管理。ゼミでは過去に2回、山崎製パン株式会社とともに関ランチバックの開発を行った。現在、エキマルシェ大阪やものづくり系企業、理工系学部との共同プロジェクトをゼミ生とともに推進している。



エキマルシェ大阪 営業管理（当時）
藤田 允
（ふじた じょう）

エキマルシェ大阪で2012年開業時より販促を担当。エキマルシェ大阪で株式会社ジェイアール西日本デیلیーサービスネットは、エキチカ商業施設「エキマルシェ」の開発運営、JR西日本の駅におけるセブンイレブンキオスク・ハートインの運営及び駅構内店舗の開発運営、ホテル「ヴィアイン」の運営を行っている。